# 「はばたく群馬の指導プランⅡ」の趣旨に基づく授業実践

## Ⅰ　単元構想

渋川市立北橘中学校

単元構想の中で、英語4技能（「話すこと(やり取り・発表)」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく育成し、コミュニケーション能力を高める指導の在り方の確立に向け、単元計画及び1単位時間の授業構成を考えた。また、単元のゴールに「オーセンティックな言語活動」を設定し、そのゴールに向けて指導計画を構成した。そして、英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に示した言語活動を計画的に行い、その中で、生徒が英語を即時的に発信して、自分の思いや考えを伝えられるようにした。

## Ⅱ　重点項目

※単元構想において、重点を置いた５つの項目

### ① オーセンティックな言語活動

「オーセンティックな言語活動」とは、英語を使う必要のある実存する相手と、実際の目的をもって行う活動で、その活動を単元のゴールに設定することで、生徒たちが英語を話す必要感を意識して言語活動に取り組めるようにした。

### ② 試しの活動

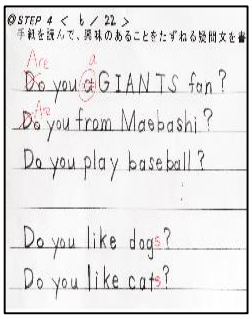
単元のゴールに設定した言語活動を、これまでに学習した表現を使って、一度生徒たちに、させてみる活動を言う。準備等をさせずに行うことで、「英語で言いたかったけれど言えなかった」ことや「他にどんなことが言えたのか」等に気づかせ、もっと英語で伝えたい思いを高め、英語を発信する動機づけとした。

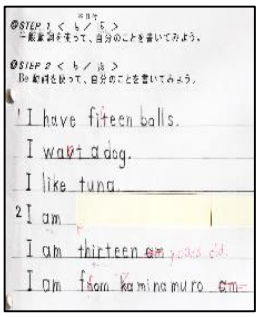
### ③ 即時的な英語の発信

英語でやり取りをする上で、暗記をした文やあらかじめ書いた英文を読み伝えるのではなく、自分の思いや考えを伝えるために必要となるキーワードの「メモ」などから、自分が話そうとすることや伝えたい内容について、既習表現を十分に活用してその場で英語を発信する活動を取り入れた。

### ④ 中間評価

ペアワークやグループワークで言語活動を行いながら、途中に模範となる生徒やグループに発表をさせたり、また話した内容を書かせ、その英文を修正させたりして、単元ゴールに向けて参考となる表現や伝える内容を全体で共有した。そこで「言えなかったこと」が「言えるようになる」ことで意欲が高まり、また既習表現を使って言い換えられることも生徒に伝えることで、次の言語活動の中での表現の広がりや、内容の深まりを生徒が自覚できるようにした。




### ⑤ ４技能（５領域）

聞いたり、読んだりして得られた情報を自分の中で整理し、興味や関心をもったことを相手に尋ねたり、手紙に書いたりすることで、「聞いて話す」「読んで書く」など、複数の技能（領域）を効果的に組み合わせ、連続性のある技能（領域）を統合する活動を取り入れた。

## Ⅲ　成果と課題

**＜成果＞**

オーセンティックな言語活動を取り入れることによって、生徒に英語を使う必要感をもたせ、即時的に英語を発信する機会を授業に取り入れたことで、間違いを恐れず英語を発信しようとする生徒の姿が見られた。また、グループワークで協力しながら言語活動を行うことで、生徒が主体的に自分の考えや思いを伝えることができた。そして、「分からなかった」「言えなかった」ことを中間評価で解決していくことで、その表現や内容を次の言語活動で取り入れることができ、生徒の深い学びにつながった。

**＜課題＞**

英語でのやり取りがもっと継続できるように、反復練習や英語を発信する体験的な場面をたくさん取り入れ、即時的な言語活動の充実を図る必要がある。また、活動途中の中間評価で、生徒たちの良い手本を提示したり、ALTとのデモンストレーションを多く取り入れて視覚的に理解させることも必要である。